



辛夷(コブシ)の花: 院内

## 新年度所感

新型コロナウイルス感染症(2類)と対峙してきた3年間、その後のインフルエンザウイルス感染症との同時流行もあり、医療機関は未曾有の感染症パンデミックを経験してきました。その間当院では、ICT(感染症コントロールチーム)と呼吸器内科医師を中心に、各部署の現場スタッフが協力して感染患者への治療だけでなく、院内感染予防についても積極的に取り組んできました。現在、私たちを取り巻く生活環境は確実に活気を取り戻しつつあります。パンデミック以前の生活へ戻ることは難しいのかも知れませんが、本稿が発刊される頃には気候の温暖化と相まって感染症が鎮静化し、気持ちよい東温の春を満喫できればと思っています。

当院では一般診療とともに重症心身障害者、結核および神経難病患者さんに対する政策医療を提供しています。一方で、愛媛大学医学部附属病院や四国がんセンター等の、高度専門医療を提供する大規模病院が近隣にあることから、地域に根差した医療の提供が当院の役割と考えています。その一環として、当地区の一般病院や開業医の先生

方との円滑な連携と、地域住民の皆様が受診しやすい環境を整えることを目的として、東温市松山東部地区地域医療連携の会(WEB)を立ち上げました。開業医の先生方は当院地域医療連携室を通して是非ご連絡頂ければと思いますし、地域住民の皆様はかかりつけ医の先生にまずご相談ください。また、松山医療圏域の救急医療2次輪番に参画して約8年が経過しました。限られたマンパワーで、夜間・休日の救急対応では困難な時間帯も経験しますが、信頼される医療の提供という当院の理念を基に職員一同頑張っています。

当院は本年度より紹介重点医療機関に認定を受けました。詳細は病院受付・ホームページ等に掲載していますが、初診受付時間の変更や紹介状を持たれていない、新規受診患者さんの診察料金が変更されていますのでご注意ください。

国内外に憂慮すべき事案が多発していますが、新年度が皆様にとって素晴らしい日々になることを祈念いたします。

特命副院長 船田 淳一

# 令和6年能登半島地震

この度、令和6年1月25日から29日まで、令和6年能登半島地震への医療支援に向出し、当院から医療班5名で石川県輪島市での活動を行って参りました。

地震発生から約1ヶ月が近づきつつある時期でしたが、日本各地から先行して行われていた医療支援の努力もあって、医療的ニーズは徐々に減りつつあり、急性期の対応から地域医療および福祉支援調整への移行時期となってきていました。

現地本部ではDMATほか各方面から多くの支援部隊が連携・情報調整を行っていました。新型コロナおよびインフルエンザ感染症の流行も幾分続いておりますが、当院も医療班チームとして看護師（感染管理認定）・薬剤師からの専門的な知識も提供して、診療支援のほか避難所生活における環境アセスメントなども行いました。

気候的に大型寒波ただ中の活動で厳しさもありましたが、避難所生活を送られている住民の方々に、微力ながら支援の一助になれたものであれば幸いです。

神経内科医師 戸井 孝行

令和6年能登半島地震におけるNHO医療班派遣に参加しました。令和6年1月12日に、NHO中国四国グループより医療班派遣について打診があり、阿部院長が医療班派遣を決定し、1月26日～28日の3日間、石川県輪島市内の避難所で医療班活動を行いました。派遣メンバーは医師1名、看護師2



派遣メンバー（左から）：戸井医師 山下看護師  
高須賀事務部長 稲田看護師 飯田薬剤師

名、薬剤師1名、事務職1名の5名です。

発災から約1カ月経過しており、被災者の医療的な要求は少なく、輪島市役所に設置された医療本部（日赤）の指示により、4箇所の避難所の概況調査、ライフライン・設備状況、生活環境・食事供給等の環境的側面調査、配慮を要する人の人数確認、避難所代表者に対する、感染予防対策に関するアドバイスが主な業務でした。

報道されているとおり家屋の倒壊が多く、未だに手付かずの惨状を目の当たりにしました。通行ができない道路が多数あり、電気は復旧していましたが、上下水道は使えず、水は給水車による配給で、トイレは屋外に設置された簡易トイレを使用する状況でした。入浴はもちろんのこと、洗顔や歯磨きにも苦慮する現状でした。

困難な道ではありますが、被災地の復興が少しでも早く行えることを願うばかりです。

事務部長 高須賀 良樹



出発式で激励の言葉を贈る阿部院長



今季一番の冷え込みの中出発

# 災害医療支援派遣記識

1月26日から1月28日にかけて令和6年能登半島地震の災害支援のため石川県輪島市にて活動を行いました。

現地の状況は家屋は倒れたままで、道路もなんとか通れるように段差や地割れを補修しているという状態でした。

震災から3週間以上が経過しており、日用品などの物資は大量に供給されており、食事も炊き出しや菓子パンなどが配給されており、避難所の生活はある程度安定してきている状況でした。

しかし断水は3週間以上たっても改善しておらず、トイレは屋外のトイレカーヤ、仮設トイレの使用を余儀なくされていました。寒い時期でもあり高齢の方はトイレが近くなるため水分を1日ペットボトル1本しか摂取しない方が多くいらっしゃいました。

普段私たちが当たり前で使用している水が使えなくなることで生活に多大な影響があることを改めて実感したとともに、災害が起きる前に、ライフラインが途絶えたときに、どう対応するかといった事前準備や対応策の検討の重要性を肌で感じることができました。

今回の活動を通して経験したことを当院のマニュアル等に活かしていければと思います。

看護師 稲田 棕

はじめに、今回の地震で被災された皆様に心からお見舞い申し上げます。

私たちが派遣された時期は、災害サイクルでいうところの亜急性期にあたり、無事に避難できた方たちが、これからの生活に向かおうとする時期でした。そのためかろうじて通れるようになった道路や、建物は被害を受けたそのまま被害の大きさを物語っていました。

医療班の主な任務は避難所の巡回でしたが、その中で支援物資のパーティションにより「周囲の人の顔が見えなくなったことで逆に心配だ」との声や「やることもないしずっと横になってる」との声が聞かれました。プライベート空間ができることは



大屋小学校（輪島市）で診察中



輪島市役所で朝のブリーフィング

良いことだと考えていましたが現場の生の声により、デメリットもあることに気づかされました。

近い将来、南海トラフ地震では私たちが被災者となる可能性が高いです。今回の派遣で得た経験や知識を生かして平穏期である現在から必要なことを考えていく必要があると考えます。

最後になりましたが、今回の派遣にあたり活動のために尽力してくださったスタッフの皆様にごの場をお借りし心より厚くお礼申し上げます。

看護師 山下 貴行

愛媛医療センター薬剤部の飯田健三です。

この度、令和6年1月1日に発生した能登半島地震に対する医療支援として戸井孝行 医師、高須賀良樹 事務部長、稲田棕 看護師、山下貴行 看護師と薬剤師として私が1月25日から1月29日に派遣されました。

現在の能登の状況は、まず、医療提供はDMAT等により、我々が派遣されるまでの間で改善が見られ、病院・薬局は共に活動が再開されつつある状況でした。

しかし、まだ安定して医療提供ができていない状況ではなく、また、ライフラインである水道や路面がまだ復旧できておらず、避難所での生活から仮設住宅への移行もこれからの状況でした。

今回の活動報告ですが、我々愛媛医療センター医療班は、DMATが2月4日から撤退することを受け、現在の避難所の引継ぎ状況、環境管理状況・改善を主な目的として活動しました。

環境管理としては、ノロウイルス蔓延予防のためトイレ環境の確認・清掃の状況、居住区のゾーニング、換気状況等を確認し改善案等報告を行いました。

今後は、今回の医療支援活動を病院機構内で共有し活用できるよう情報交換を行っていきたいと思います。

薬剤師 飯田 健三

# 地域の輪



## 土居循環器科内科

### 繋がる地域医療連携

当院は北久米駅前昭和59年に開院し、かかりつけ医として地域の診療を行ってきました。令和4年に院内の改装を行い、合わせて院長の交代をしました。現在は先代の院長と二人体制で診療を行っております。循環器内科医として10年、急性期・慢性期の病状管理、カテーテル治療などの経験を積み、松山赤十字病院で5年、高血圧症・脂質異常症・糖尿病などの外来管理を学びました。救急外来も定期的に担当しており専門外の病気の初期対応も経験を積むことが出来ました。

患者さんの利便性を考え、血液検査は30分前後で結果が出せるようにし、様々な検査を行えるように設備も変更しております。院内改装に伴いバリアフリー・土足での出入りが可能とし、新たに発熱外来を建物内の別室（専用の出入口あり）に設けるなど感染症に配慮しながら診療を行えるようになっております。

何でも相談できるかかりつけ医を目指しながら診療を行っております。治療・検査が難しいと判断した場合、愛媛医療センターをはじめとした専門病院と連携を取りながら診療を進めております。

微力ながら地域に貢献できるように診療を行っ

ていきたいと考えておりますので宜しくお願いします。

施設名：医療法人 土居循環器科内科

院長：土居 寿之

診療時間：月・火・水・金

8：30～12：00、14：00～18：00

木・土 8：30～12：00

休診：木・土の午後、日曜・祝日

住所：松山市北久米町242番地

電話番号：089-975-3501

アクセス：伊予鉄横河原線 北久米駅 目の前

川内線(バス) 北久米駅 徒歩1分



## 医心伝心

### MRIのおはなし

皆さんはMRI検査と聞いてどんな印象をお持ちでしょうか？放射線検査で比較的ポピュラーなCT検査と比べると、なじみが薄いかもかもしれませんね。この検査は痛みや不安を抱えて検査を受けられる方からは、「時間が長い」「うるさい」「狭い・圧迫感がある」の三重苦の検査と言われる。撮影する側からもう1点追加すると、上記3点に加え「体の動きにも非常に弱い」ので、実質四重苦の検査となってしまいますね。

検査を実施する診療放射線技師は、画質を維持しながら、できるだけ早く検査が終われるように努力していますが、着替えも含めて30分くらいはかかってしまうのが現状です。(撮影部位によって撮影時間が変わります)

さて、先にMRI検査のデメリットを紹介しましたが、単につらい検査というわけではなく、MRI検査でしか得られない情報が多いなどメリットもたくさんあります。

最大のメリットは放射線を用いないため被ばくが

ないことです。他にもCT検査では見づらい臓器内部の細やかな情報を得られることや、造影剤を使わなくても脳血管や体の血管情報を得られることなどが挙げられます。MRI検査が得意とする部位は以下になります。

- ①脳と、脳の血管
- ②脊椎とその周辺組織・関節やその周囲の組織
- ③胆管、総胆管、膵管
- ④前立腺や卵巣など骨盤内の臓器

少しでも、気になるところがありましたら、積極的に検査を受けていただければと思います。各診療科にお気軽にご相談ください。

診療放射線技師長 木戸 泰治



MRI本体と木戸技師長



# 研鑽究理

## 第18回 院内研究発表会



令和6年2月20日に第18回院内研究発表会が開催されました。

今回は、臨床工学、リハビリテーション科、栄養管理室、看護部、医局から、合計10演題の発表がありました。当日は、それぞれの発表に対する質疑応答も行われて大変充実したものになりました。

発表は二つのセッションに分けて行われました。今回も奨励賞を設けましたが、新しい試みとして、各セッションの座長に選定をお願いしました。

奨励賞に選定された一つ目は、看護サマリーのあり方について検討を行った発表でした。

厚生労働省の提唱する地域包括ケアシステムの構築においては、支援を円滑に行うために医療機関や介護施設の間で必要な情報を共有することが重要です。この発表は、看護サマリーによる情報

の共有に焦点を当てたものでした。

もう一つは、末期の心不全に対して緩和ケアを行った症例の報告でした。

愛媛県は心不全死亡率が高く、その対策が課題となっています。この発表では、心不全の緩和ケアにおける問題に取り組む必要性が提起されました。どちらの発表も地域における関心の高い問題に関連した発表で、勉強になりました。

今回の院内研究発表会も開催にあたって多くの方のご協力をいただきました。この場をお借りしてお礼を申し上げます。

臨床研究部長 安原 美文



人工呼吸器が…



脊椎麻酔の…

### 発表演題一覧

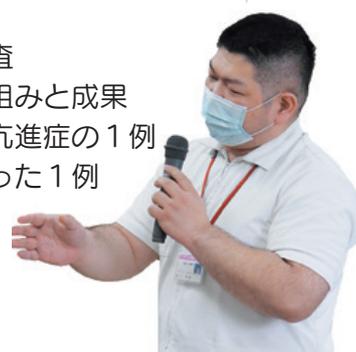
#### セッション1

1. 過去5年の医療機器に関するヒヤリハット事例分析による臨床工学技士の対応と役割
2. リハビリテーション実施計画評価料と退院時リハビリテーション指導料の算定率向上の取り組みについて
3. エッグショックの影響を受け献立を見直しました
4. A病院の一般病棟におけるバイタルサインモニターのアラーム対応に関する現状と課題 ～不適切なアラームの実態と看護師の認識を低下させる要因～
5. 継続看護に必要な看護サマリーのあり方の検討  
—アンケート調査から見てきた現状と課題—

基本的な質問  
なんです…

#### セッション2

6. 重症心身障害(児)者病棟における医療安全に関する意識調査
7. 感染対策防止委員による手指消毒使用量増加に向けた取り組みと成果
8. 肺非結核性抗酸菌症治療中に発症した3次性副甲状腺機能亢進症の1例
9. 末期心不全に対し抗うつ薬・抗不安薬を用い緩和ケアを行った1例
10. この7年9ヶ月間の脊椎麻酔1158例の総括



退院時の…

# 医療安全 管理より だより

こんなことしています

# 転倒 転落

## 防止の取り組み

医療安全部会では「転倒転落防止グッズを使いこなそう！離床センサー、衝撃吸収マットの効果的な使用方法」をテーマに学習会を開催しました。

入院中の患者さんで転倒・転落が起こっているのは、入院して間もない時期が多く、入院早期から、患者さんの状況に合わせた対応が必要となります。高齢患者さんの転倒は、骨折など、大きなけがにつながる可能性があり大変危険です。



離床センサーの機能について説明中

今回は、院内で使用されている離床センサーやコールマットの使用方法を、パラマウントベッド担当者の方から説明していただきました。

離床センサーには「起き上がり」「端座位」「離床」「見守り」機能があります。どのタイミングで介助が必要であるのかをアセスメントし、患者さんの活動状況に合わせて、報知のタイミングが設定できます。基本的な操作に加え、困った事例など意見交換することで活用方法を再認識する機会となりました。

当院の転倒・転落防止対策はこうした転倒・転落防止グッズを正しく使用するのとは勿論のこと、患者さんの病状の把握や、生活環境の整備など、看護師間でカンファレンスを行いながら対策を考え、入院生活が安全に送れるように取り組んでいます。

また、今後は看護師の実践能力に関わらず転倒・転落のリスク評価、対策ができる転倒・転落防止策のフローチャートを整備し、患者さんの安全を守れるよう努めていきたいと考えています。

副看護師長 八木 忍

## 四季燦餐 ～キャベツの巻～

ぽかぽかと暖かい陽気に包まれるようになってくると、春の訪れを知らせてくれる食材を目にする機会も増えてきます。皆さんは、《春の食材》といえは何かを思い浮かべますか。

今回は、『キャベツ』についてご紹介します。キャベツは、1年中スーパー等に並んでいますが、実は大きく分けて2種類あります。

一般的に『キャベツ』といわれているものは、寒玉と言われるものです。形が楕円で葉と葉の間には隙間がなく、重みがあり葉は硬くて厚め、中は比較的薄い緑です。甘味もあるので生でも美味しく召し上がれますし、焼きそばやお好み焼き、餃子やロールキャベツ等の加熱調理にも向いています。

一方、3～7月初めに出回る『春キャベツ(旬は4～5月半ば)』は、形が丸くて小さめ、葉の巻き方は緩く軟らかで、中まで黄緑色です。春玉とも呼ばれ、出始めは『新キャベツ』とも呼ばれます。水分が多く甘味があるので、サラダ等の生食や浅漬け等に向

いています。加熱すると崩れてしまうので、どちらかというと加熱調理には向いていません。千切りにして、トンカツに添える等はもちろん、適当な大きさにちぎって豆腐としらすをのせてサラダにするのも良さそうですね。

キャベツには、ビタミンU・ビタミンC、カリウム、カルシウム、食物繊維が豊富に含まれています。ビタミンUには、傷ついた粘膜を修復する作用があり、胃腸障害(胃潰瘍や十二指腸潰瘍)を予防したり、回復を早める効果があるともいわれています。ビタミンCは、ウイルスによる感染症を防いだり傷の治りを助ける作用があるので風邪やケガ、そして疲労回復にも効果があります。

何か「あと、1品」そんなメニューでお困りの時には、生でよし！煮てよし！炒めてよし！

キャベツは、その季節の特徴に合わせて、1年中美味しく召し上がることができる強い味方ですね。



# 看護学校の頁 ～学び舎から～

令和6年3月6日、私たち第20期生32名は、卒業式を迎えました。卒業式には、学校長先生をはじめ、ご来賓の皆様にご臨席いただき、数々のご祝辞と激励のお言葉をいただきました。

3年前、私たちは、愛媛医療センター附属看護学校に入学し、看護師になりたいという同じ夢を持った仲間たちと出会いました。この3年間、多くの課題や終了試験、臨地実習を乗り越え、看護師になるという夢を叶えるために日々努力してきました。

ここまでの道のりは、想像以上につらく、悔しいこともありました。共に努力する仲間をはじめ、いつも陰で支えてくれた家族の存在や、受け持ち患者様からの「頑張って、いい看護師さんになってね」というお言葉に励まされました。そして、私たちの強い味方であり、いちばんに私たちのことを考え、熱心に指導してくださった先生方の「よく頑張ったね」という言葉に何度も救われました。

看護学校で過ごした3年間は、これまでの人生でいちばん充実した、濃密な時間で

もあり、大きく成長できた3年間でもありました。ひとりではここまで来ることはできなかったと改めて実感しています。

先日の看護師国家試験に向けては、「みんな合格えいえいおー」を合言葉に毎日努力し、無事全員で受験することができました。

卒業を迎えた第20期生32名。卒業後は、大好きな仲間とも離れてしまいますが、それぞれが目指す憧れの看護師像に向けての目標、信念を持ち、日々患者様のため、自分自身の成長のために今後も精進してまいります。ありがとうございました。

卒業生代表 西下 結芽香



泣くな、友よ  
第二十回  
卒業式  
今、惜別のとき

## ちよんと言い放し

愛媛医療センターニュース編集委員の持ち回りでお届けします。

小説であれ、随想であれ、読んでいると食にまつわる記述シーンに出会うことがある。昨今は、ネット小説の、「とんでもスキルで異世界放浪メシ」とか「異世界居酒屋のぶ」「異世界食堂」と言った作品の、「調理シーンや、喫食シーンは、「飯テロ」と呼ばれ、食欲をそそる表現の代名詞になっているようだ。私も読んでみたが、飯テロと呼ばれるのも肯ける表現が面白かった。ところで、日本で食通の代表格と言えば、言わずと知れた、北大陸魯山人だが、彼の書いたものを読んでも、さほどに食指は動かない。考えてみるに、元来が文章表現者ではないからだろうし、彼の文章は論評であって、調理や料理そのものを表現したものではないのだから、これは致し方ないところかもしれない。

そこへいくと、圧倒的に美味しそうなのは、池波正太郎さんであろう。剣客商売シリーズ・鬼平犯科帳シリーズ・仕掛人シリーズ・どれをとっても随所に食の表現が見受けられ、全てが生唾物だ。

私は、食べるのもちろんだが、料理を作るのも好きで、ちよんちよん台所に立って、池波作品に限らず、他の作家の作品(例えば、高田郁・みをつくし料理帖とか...)に出てくる料理も再現して楽しんで

ているのだが、主に酒の肴というのはご愛嬌だ。中でも鬼平犯科帳の「凶賊」に出てくる『芋臈』は秀逸で、晩酌が滅法すんだ記憶がある。

こうしたことの影響か、自分でもレシピを考え、どう表現したら美味そうかと考えながら、文章として書き留めて遊んでいる。そのうちのひとつをご紹介します。

スジを取って、水に晒しておいた路を細かく刻んで、油揚げと共に炒め、醤油と味噌で甘辛く味を調えたものを、炊きたての飯に混ぜ込んだ。

豆腐の味噌汁には、笹搔ぎにした独活を浮かべた。

狭い食卓に春の香りが満ちた。如何だろうか。美味しそうと思っただけだったら、幸いである。あくまでも私の想像上の料理で、まだ作ることがないので、味の保証はできない。お話しになった後の、異論反論は受けかねるのだから、悪しからず。

樹懶菴



# 外来診療担当医表

現在、当院では外来診察室の工事を行っており、診察場所が変更となる場合があります。  
診察場所について、ご不明な点があれば、医事受付窓口までお問い合わせください。

診療科	診察室	午前・午後	月	火	水	木	金
循環器内科	6診	午前	船田	船田	関谷	岩田	関谷
		午後		堀江	船田		
消化器内科	9診	午前	古田	廣岡	久保	加藤 (糖尿病専門)	久保
		午後					
	11診	午前			加藤		
	12診	午前				奥平	
呼吸器内科	10診	午前	阿部	伊東	佐藤	三好	伊東
		午後					田邊
	11診	午前		渡邊		仙波	
		午後					
	8診	午前					山本
		午後	三好				
脳神経内科	8診	午前				尾原	
	12診	午前	尾原	戸井			戸井
		午後	大八木				
整形外科	14診	午前				石川	
	15診	午前	宮本		青木	宮本	玉井
	16診	午前	青木	玉井	石川		
リハビリテーション科	15診	午前		曾我部			
消化器外科	14診	午前		鈴木	森本		
		午後					石丸
呼吸器外科	14診	午前					湯汲
小児科(神経外来)	14診	午後	菊池		桑原		菊池

専門外来(予約制)		月	火	水	木	金
心臓外科外来	16診					泉谷
ペースメーカー外来	16診				第2・4(午後)	
糖尿病外来	11診					宮崎(第4)
フットケア外来	小児面談室				隔週	
スキンケア外来	救外		第1・3(午前)			
ペインクリニック	12診			山内(午前)		
じん肺外来	16診					西村(第1午前)
アスベスト外来	14診		午後		午後	
息切れ外来	11診	渡邊(13時30分~)				
SAS外来	11診					渡邊(14時~16時)
頭痛外来	16診				永井(第2・4午前)	
神経難病	8診			橋本		
鼠径ヘルニア外来	14診		鈴木(午前)			
気胸外来	14診					湯汲(午前)

※外来受付は8時30分から11時までです。ただし、土・日・祝祭日・年末年始(12月29日~1月3日)は休診です。 2024年4月1日現在  
※SAS(睡眠時無呼吸症候群)

## 独立行政法人国立病院機構 愛媛医療センター

〒791-0281 愛媛県東温市横河原366 TEL 089-964-2411 FAX 089-964-0251  
ホームページアドレス <https://ehime.hosp.go.jp>

※弊紙の基本方針として、掲載写真については原則ご本人様の了解を頂いております。

※弊紙へのご意見ご要望ご感想は、当センター内病院新聞編集委員会(担当:小倉)までお寄せください。